

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4373100835
法人名	株式会社いわしや窪田
事業所名	グループホームやすらぎの里にしき
訪問調査日	平成 20 年 3 月 5 日
評価確定日	平成 20 年 4 月 5 日
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年3月21日

【評価実施概要】

事業所番号	4373100835
法人名	株式会社 いわしや窪田
事業所名	グループホームやすらぎの里にしき
所在地	熊本県球磨郡錦町大字西鳥越141 (電話) 0966-38-3883

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41-5
訪問調査日	平成20年3月5日

【情報提供票より】(20年3月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年12月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 7人, 非常勤 10人, 常勤換算	人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	平屋造り	
	階建ての	階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	250 円
	夕食	250 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(3月5日現在)

利用者人数	16名	男性	4名	女性	12名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	4名	要介護4	7名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.3歳	最低	70歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	人吉総合病院 緒方医院 中球磨歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

幹線道路から脇道を少し入った木立の中、広大な敷地に白壁造りの平屋のホームが2棟。この2つのホームは長い渡り廊下でつながって、入居者は自由に行き来ができ、気ままな生活ができる広い空間となっている。ホームでの毎日は「安全で事故のない生活」を第一に考え、日課を作らず、好きなように自由に暮らしてもらいたい・・・と、施設としてはなく自宅と捉えた暮らしの支援を目指している。経営者はホームの清潔保持を重視し、月に2回、専門業者にホームの清掃を依頼しており、職員の仕事の量も勘案され、ケアに専念できる体制が作られている。

2

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価を受け、広い敷地を活かしての菜園整備や案内板設置、靴箱の目隠しカーテンを設置したり、大きなガラス戸をスタンドグラス風にアクセントを付けて危険防止を工夫する等、課題改善に向け全員で検討し、役割を決め取り組む積極的な姿勢が見受けられた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者と事務長が協力し自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	施設側から出された各種資料をもとに各委員のかかわりは活発である。特に家族の一人が行政の福祉関係担当であり、問題把握がしやすい状況もあり、運営推進会議の果たす役割が大きくなっている。委員の一人である地区分館長からは随時行事案内があり、ホーム入居者の行動半径が広がる等、地域からの協力体制が確立しつつある。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会の開催や、ホーム便り・援助経過表の送付等を通じ、家族がホームの生活を知り意見を出しやすい環境作りに努めているが、家族の関わり方も多様で課題も抱えている。今後、家族へアンケート調査を行ない、より多くの要望把握と家族意見を収集し、運営に反映させたいと意欲をみせている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域行事に出かける機会は少しずつ多くなってきており、昨年は避難訓練及びバーベキュー大会の開催と、5周年記念イベントの二つの大きな行事を行い、地域との交流ができた。今年度はホームの広い敷地を利用し、地域の夏祭り開催を予定する等、徐々に地域との距離が近まりつつある。今後の働きかけと交流の成果に期待される。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「信頼と博愛」という理念に基づいて、利用者の生命力と意思を尊重して、より質の高いケアを目指している。グループホームとしての理念だけでなく、地域密着型サービスとしての役割を理念の中に詠いこみ、地域の中での暮らしを支えるサービスであることの再確認があると良いと思われた。	○	地域密着型サービスとしての支援のあり方と役割を全職員で考え、これまでの理念に付加して作り上げることも良いと考える。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼時、申し送り後に全職員で唱和。管理者はケア実施の中で示し、職員に対しての気づきはその場で伝えて理念の共有と理解に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域消防分団の指導協力の下、地域住民と老人会の参加を得て避難訓練を実施。訓練終了後には全員参加のバーベキューを行ない交流を深めた。また、ホームの「開設五周年記念」イベントには「琉球三線」の催しに地域住民50名程の参加があり、飛び入りで踊る等、和やかな交流となった。この二つの行事がきっかけとなって、散歩時の挨拶はもとより季節野菜の差し入れがあるなど、ホームへの理解・認識が深くなってきた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	2ユニットを一つのホームとして、事務長と管理者で客観的且つ率直な自己評価を行なっている。外部評価については、前年度指摘項目に全職員で取り組み、そのほとんどについて改善がみられ、高い意欲が伺える。	○	来年度は全職員で自己評価に取り組むことで、更なる意識付けが期待される。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は入居者代表2名を含む11名で構成され、ホームから提示された各種資料をもとにその討議は活発である。「地域交流が薄いようだ」「広い敷地を活かした畑作りや植樹」等の意見には即対応。錦町分館長からは行事参加の案内やお知らせも随時あり、ホームと委員の信頼関係が培われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携を深めるため、頻繁に窓口に出向き、直接対話を重要視している。行政担当者とは何でも相談でき、入居者の動向や運営状況にも関心を持ってもらっている。更にホーム運営への理解を深めてもらうよう、イベントへ招待するなど連携を計っている。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎日の「援助経過表」に担当者のサイン入りで、利用者の暮らしぶりや健康状態等を記載し「利用者日記」として、金銭管理報告書・領収書と共に毎月家族へ送付されている。又、隔月に発行される写真入りの「活動レポート」と、必要に応じた管理者の手紙を同封し、家族への報告としている。	○	家族への報告事項の中に、新人職員の紹介や異動・退職情報を入れると、ホームと家族の理解が深まり、安心を得ることにつながると思われる。職員の名前を覚えてもらうために、写真に名前や特技等を入れて紹介するのも効果的と考える。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の開催、ホーム便りの送付、日常の報告等、家族へホームでの暮らしぶりを伝え、意見を伺うよう配慮が見られるが、現状に満足されている家族が多いのか、意見の収集は少ないようである。	○	更なる意見の汲み上げに家族アンケート実施の計画があるので、成果に期待が持たれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度、事務長を含め二つのホームに5名の新規採用があり、2ユニット17名の配置となっている。新入職員には、責任者をつけての現地研修や、1ヶ月は夜勤に組み込まず、最初の夜勤時は補助職員をつける等、スムーズにホームの仕事になれるよう配慮されている。	○	以前に比べ、職員の退職者が減り、落ちつきつつあるので、なじみの関係づくりに引き続き努力を期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	19年度介護支援専門員資格取得に2名、介護福祉士資格取得に4名が挑戦。職員は自主的に資格取得に取り組んでいる。20年度研修計画では補助金を付けての支援も考慮されており、更なる専門知識向上が期待される。日常のケアについてはその都度管理者が現場で対応。そこに職員の学びがあり、サービスの向上につながっている。	○	外部研修参加に際しては、伝達研修のシステムを作ることで、知識の共有に効果があると思われる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	人吉・球磨地方のブロック研修には職員全員が参加し、意識の向上を図っている。また鹿児島県内の福祉施設との交流も行ない、サービスの向上に努めている。管理者のみの集いも企画され、業務上の悩みを相談できる場も確保されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に自宅もしくは入所中の施設を訪問、家族の了解を得た後「遊びにきませんか」と誘いかけし、施設職員と共にホームに見学に来てもらっている。本人の反応を確かめ、家族の希望も受け入れつつ入居可能かどうかの見極めをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護度の高い入居者も、出来る範囲内での洗濯たたみ、掃除、皿洗い等で活躍する姿が見られた。職員への聞き取りでは、「入居者の笑顔がうれしい」「ありがとうと言われることがうれしい」と、入居者との間の支え、支えられる日常が伺えた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日光浴やドライブ、テレビ観賞、温泉浴等、なるべく本人の思いに沿った暮らしになるよう取り組みがなされている。直接思いを引き出すことが困難な入居者も多い中、家族からの聞き取りや、本人の表情から類推するよう心掛けている。	○	介護度が高くなり、思いや意向の把握が困難になっていくケースなど、多様に対応できる情報シートの作成があれば更によいのではないかと思われる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々のショートカンファレンスで出された職員の意見や気付きと、家族や本人の思いを基に介護計画を作成している。それでも、時折々に変化する入居者の対応に、スタッフの意見を反映するまでには至っていないと、自己反省が聞かれた。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1枚の様式で入居者全員分の申し送りが確認できるシステムを工夫し、毎日情報の共有がなされ、日々変化する入居者への対応に努力されているが、現状に即した介護計画の変更が遅れがちなようである。	○	利用者に大きな変化はみられなくても、定期的に利用者の意向や状況を確認し、家族とも話し合い、介護計画の見直しを充実させることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近隣の高齢者を対象に、認知症対応デイサービスの実施を試みており、現在、利用者は一人だけの利用だが充実すればショートステイへの転用も考慮されている。また、医療連携で、入居者の通院に同伴したり、職員が利用者の散髪をしたり、帰宅願望の利用者とドライブがてら出かけてる等、職員による多機能な対応が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人とも相談のうえ、ホームの協力医の往診を受診の柱にしている。月2回の往診があり、入居者にとって外来での受診の負担が抑えられる利点が見られる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	当初からの利用者については家族と近親者を含む合意の上で同意書を作成されているが、新たな利用者には、入居時に終末期の迎え方を話し合い確認を取っている。ターミナルケアはこれからの課題で、現時点では「食事の経口摂取ができる」事が条件という考えである。	○	終末期については日々変化がある中でくり返しの話し合いが必要かと思われる。利用者全員について同意書の見直しと確認を行い、同意書の無い家族に対しても、ホームとしての明確な意向を示されることが望ましい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は、職員の言葉掛け等に不適切な表現を感じたときは、その場で注意を促し、常に入居者の尊重に注意を払っている。また、各種の記録は事務室内で行なっている。訪問当日、排泄介助の職員間の連絡時、やや元気過ぎると思われる対応が見られた。	○	排泄介助について職員間で再確認するとよいのではと思われる。また各居室のドアに付いている透明の窓に関し、カーテンのある部屋、ない部屋が見られたが、プライバシー保護の観点から、全室付けることが望ましいと考える。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	とりたてて日課を作らず、同じことを皆ですするという日常ではないが、職員と一緒に日向ぼっこをしたり、手を繋いで散歩したりと、ゆったりした時間が流れている。起床・就寝時間、夜間のテレビ視聴も自由。就寝時、天井灯がまぶしいという利用者には足元灯をつける等の配慮がみられた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メロン棟では不穏状態を示す人が多いようで、一人ひとりが自分のペースで食べられる様、食卓配置に工夫がある。ナン棟は食事介助が必要な人以外は、自分の分は自分で配膳台からテーブルまでトレイを運ぶ姿が見られた。メニューの材料について利用者と職員が語り合う場面もあり、食事を楽しむ雰囲気を感じられた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴したいという希望に対応している。入浴に抵抗の有る入居者にも、最低週2回は入浴してもらい、清潔を保てるよう支援している。時には外部の温泉へ出掛け、入浴を楽しんでもらう工夫も行なっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一番の楽しみ毎はドライブで、気軽に利用者の希望を聞きながら出かけている。洗濯干しやたたみ、食事の準備、片付け等を継続的に参加してもらうことで、本人の張り合いにつなげている。週に一度移動パン屋さんの来訪は、利用者の楽しみの一つになっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な買物などの外出は多くないが、広く開放感のある敷地内での日向ぼっこ、散歩などに誘い、できるだけ外気の中で気持ち良く過ごせる配慮がある。職員と一緒に事務長も外に出て語りかけ、穏やかな一時を楽しむ風景がみられた。温泉・足湯・故郷訪問を目的としたドライブは外出の大きな喜びとなっており、ホームに閉じこもった生活にならないような対応に努力されていた。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全なケアを目指しているが、自由に好きに暮らして欲しいという思いで玄関・ベランダに通じるドアに日中の鍵かけは行っていない。両棟の行き来も自由である。	○	職員の気付かない時の無断外出等、万一を配慮し、運営推進会議で警察・消防署や地域住民の協力を得る活動も必要かと思われる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年10月、地域消防団や地域住民・老人会の参加を得て避難訓練が実施された。これは新聞にも掲載され、地域の理解及び交流としても大きな成果が得られたと言える。今年度も7月に消防点検、10月・3月に避難訓練が予定されている。	○	昨年、大きな成果を上げており、今年度の避難訓練予定にも期待される。回数を重ねて身に付けることが緊急時に役立ち、地域の協力も得易くなると思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>発熱・便秘等の症状や、水分量チェックの必要な人・脱水傾向の利用者を把握。食事に汁物を提供し、午前・午後のおやつタイムにお茶を出すなど、ほぼ一日一リットル以上の摂取を心がけている。カウンターにはポットで麦茶を常備しており、いつでも飲めるように配慮している。また、おいしく食べられる献立作りに配慮し、その人に合わせた摂取方法で栄養バランスにも気配りが見られた。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間であるリビングは、家庭の大型版と言うべき気取りのない雰囲気、不穏症状や異食行動のある入居者への安全配慮から、室内はなるべくシンプルに設えられている。広い廊下の白壁には家庭的な温かさを出せるよう、民族調のファブリックや写真を飾る等、入居者の安心感と落ち着きを感じて貰うための努力が伺えた。</p>	○	<p>安全第一で、余分な小物を置かない配慮が見られたが、入居者が異常行動になる原因や背景をカンファレンスすることも重要と考える。引き続き安全面に配慮しつつ、居間・食堂のスペースにも生活感や季節感のある物品を置くなど、家庭的な空間になる取り組みに期待したい。</p>
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>職員は、入居者の馴染みの品物等を持ち込んでもらい、居心地の良い部屋になるよう家族に働きかけている。現在は家族の協力で拠るものが大きく、使い慣れた家具や、家族の写真等に囲まれた部屋がある反面、ベッド中心のシンプルな部屋もあり「自宅の部屋・居心地の良い部屋」としては遠い感じの居室もみられた。</p>	○	<p>「他所」を感じさせる居室は「居心地の良い自分の部屋」となるような工夫が欲しい。家族の協力を継続して働きかけると共に、入居者の生活歴や趣味等に適う部屋作りへの工夫を期待したい。</p>

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム やすらぎの里にしき
(ユニット名)	なし棟
所在地 (県・市町村名)	熊本県球磨郡錦町大字西鳥越141
記入者名 (管理者)	豊田 京子
記入日	平成 20 年 2 月 10 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『信頼と博愛』 人間にある可能性を信じるとともに「生命力」「意思」を尊び、博愛の精神を持って人々のQOLをともに考えて参る。人間としてお互いに暮らせる社会を目指し貢献事業として地域に根ざす。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送り時に、唱和し、理念の意義を理解するとともに、入居者の意思を束縛することなく自由で温和な生活が送れるように接している。	○	「理念」の信義を正しく理解し、自然体で行動に現れるよう続ける。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族へのお便りで、毎月入居者の動向、経過報告等お知らせするとともに、運営推進会議を利用して地域への理解を求めている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方の往来時の挨拶、交流会等で理解も深まり、季節野菜の差入や、徘徊入居者の送り届けなど気を配られるようになり施設に対する理解が深まりつつある。	○	今後も地域主催のイベント定期的開催するとともに、地域と共同で開催するイベントに発展させる。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	大型地震発生を想定した避難訓練を地域消防分団指導で開催し、地域住民、老人会が見学され午後の交流会を通して施設に対する認識は高まってきたといえる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入居希望者の優先順位を町役場、包括支援センターと協議し、独居老人等町が早急に支援を必要とする方たちを優先するとともに、認知症対応型のデイサービスを始めた。	○	現在、デイサービスの契約者1名週2回利用されているが、15名程度の通所利用契約者を確保し、在宅の方とのコミュニケーションを深めていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の外部評価結果を全員に周知し、各種委員会で検討し、できることから改善している。	○	前年度外部評価指摘事項が、今年度指摘事項とリンクしないよう努力している。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に、当施設の各種運営規定、安全管理指針、接遇マニュアルなど提出し、当施設の取り組みを理解して頂くとともに行政側の考え方、公民館関連の動向などお聞きし、施設運営に取り入れている。	○	当施設に対する地域行政の対応、公民館長、民生委員の方たちが協力的であり、非常に感謝している。今後更にグループホームについて理解して頂くよう働きかけ市民権を得たい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者とは、電話対応ではなく必要以上に出かけて行き、直接お話を伺うようにしている。入居者の動向や施設の現状など細部に至り相談でき、いつでも応じてくれる。「感謝している」	○	ホーム内のイベントには必ず招待し、協力してもらっている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会には参加している。地域福祉権利擁護の対象者が1名入所され、入居と同時に当施設に委嘱され管理しているが、他の入居者はキーパーソンが確実に支援はしていない。	○	社会情勢の推移から、福祉権利擁護事業が多くなると推測され、施設としても積極的な受け入れ態勢と理解に努めたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	これまで管理者、職員の研修会参加は数回実施した。施設内における虐待はないが、入居者による職員への被害は数回発生している。	○	入居者全員平等に極力平穏な精神状態にあるよう接しているが、いきなりの暴力行為は防ぎようがない。個々の行動について把握する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望の場合、パンフレットを差し上げ、ご家族の施設見学、入居者の施設見学を実施した後、運営規定及び重要事項説明をした後、相互理解、納得された場合に契約を結ぶことになっており、手順に従い入居されている。退去の場合で、他施設の都合で急な退去を余儀なくされる場合は困りますが、速やかに応じている。	○ グループホーム入居者は、特老等と平行して入居希望を申し込まれており、特老等のベッドの状況により、その日のうちに退去された事があったが、そのような事が無いよう、転居先の施設に事前に通知されるよう申し入れを行う。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意思表示は努めて尊重しているが、自分で意思決定ができないのも入居者の特徴であり、その時々場面により臨機応変な対応を行っている。	○ 入居者の精神状態の把握に努めるよう職員には指導している。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎日の援助経過表、預かり金支払い明細表、領収書を送付している。	○ 職員の異動は推進会議で報告しているが、家族に対しては報告していない。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の不満、苦情に対しては、その都度職員に周知できるようにして改善を図る。現状においては不満などの申告は無い。	○ 家族会への参加は限られており、今後は時々アンケートなど実施して家族の意向等を知る機会を設けてゆきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見・提案は可能な限り反映させるようにしている。但し施設サービスが向上し施設運営にメリットがある場合。	○ 提案に対する表彰制度を設け給与に反映させる。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務表作成の前に、予め本人たちの要望を100%取り入れた勤務表を作成している。職員配置も入居者18名に対し17人を配置し、ゆとりある勤務シフトが取られているといえる。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の勤務配置や対応などで入居者への影響がある場合は、職員の能力に応じた勤務配置を考えて異動させている。また、異動前には応援業務を取り入れ入居者への影響を最小限にできるような勤務表を作成している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実務者研修、管理者研修には毎年計画的に参加させている。対象外の職員においては研修などの案内をその都度回覧させているが興味を示す場合は少ない。	○ 今後、年間計画を立てながら、能力に応じた研修を考慮してゆく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県宅老所グループホーム連絡会のブロックにおける施設訪問はお互いに可能としている。勉強会の場合は勤務に支障がない限り全員参加を促し、参加している。交流会は全員参加ができた。	○ 昨年から、管理者のみの集いを計画実行し、お互いに意見交換など務めている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	2~3ヶ月に1回は職員主催の飲み会を開催し、職員の意見を聞くようにしている。今期は、福利厚生事業の一環として職員旅行を屋久島に出かけた。また職員全員参加の旅行積立を今年もはじめた。	○ 福利厚生費の年間予算として計上し、最も効果的な方法で消化する。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の勤務状況は常に把握し、良いところはよしと言い、悪いところは注意するよう努めるとともに、賞与などに反映させている。	○ 19年度、新しい試みとして、個々の職員の「良いところ探し」をアンケート形式で実施し、第三者から見た自分の良いところを意識させ、更に良いところを伸ばすように意識付けた。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談を受けるとすぐに本人との面談ができるよう計画し、状態把握、本人の状態に対応しながら信頼関係が保たれるよう努力している。最近の入居者においては納得のいく対応ができていると思う。	○ 認知症という特別の病気のため、自ら表現される事がほとんどないので、内面的な要求を的確に判断し、対応できるよう取り組む。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用時の心配事は必ず聞くようにして、出来るだけ不安が取り除けるような会話に心がけている。入居中の家族に対しては毎月の経過表のコピーや、変化など手紙を添えて送付している。	○ 電話による相談や訪問相談には管理者が対応しているが、職員全員が対応できるような体制が取れるようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設を希望された場合の相談を受けているが、家庭の経済的負担が大きすぎると思われた場合は、特老などの施設を紹介している。	○	入居者の中にも特老の申し込みをされている方が数人おられ、調査書など情報提供は積極的に行っている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者に対する相談を受けた場合、一度当施設を訪問してもらい、本人の反応を確かめ、本人自身が入居可能かどうかを見極めて入居してもらおう。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	寄り添う介護を念頭に置き、外出なども可能な限り行い、家事手伝いをしてもらいながらともに過ごすことを心かけている。	○	気付かない、不慣れな職員もおおり、気長に徹底するよう指導を続ける。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の情報は、細かく家族に知らせ、施設訪問を奨めているが、どうしても施設任せになりがち。	○	面会時には家族に対して外出の協力などを依頼しているが実現することは少ないので気候の良い時期には積極的に協力依頼を働きかける。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	多種多様な事情があつて入居させており、ご家族と本人の関係まで立ち入らないが、過去のことを踏まえて対応している。	○	コミュニケーションがうまく取れない入居者への面会時には、できるだけ職員がクッションとなるような場面を設定している。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚、孫などの訪問による人間関係を保たれるように施設訪問へのアドバイスは行っている。またドライブ時には、同乗者の土地勘のある場所、自宅など訪問している。	○	ふるさと訪問を計画的に実施する。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々の入居者の個性が強く、利用者同士の係わり合いは薄い孤立することなく気ままに暮らしている。	○	男性入居者の場合、協調性が薄いので、係わり方を考えてゆく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	昨年在宅復帰された入居者の通所利用を案内したり、特老の入所手続き等のお世話をしたり、関係は大事にしている。	○	他のサービス事業者との連絡体制は常に心がけ、情報交換はある程度出来ているので維持してゆく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思表示が不明の場合がほとんどで、穏やかに過ごす事ができるように心がけて対応している。	○	本人が、さりげなく意向を話されるような人間関係を作り上げる。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報収集に努め、コミュニケーションなどに生かしながら援助及び対応に努めている。	○	家族との信頼関係を保ち、これまでの生活歴を大切にしたい援助を心がける。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の生活を観察しながら、状況に応じた対応に努めている。	○	入居者により日々の変化している状態にすばやく対応できる職員教育に努めてゆく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成時には家族や職員の意見を取り入れるようにしているが、日々変化してゆく部分には随時の変更はできていない。	○	担当者会議やケアカンファレンスを充実できるようにしてゆく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状では、日々の変化、日内変動が激しい入居者については職員間で話し合い随時の対応をしているが、計画の変更までは至っていない。	○	職員相互の情報の共有の大切さを指導強化する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過記録は一応出来ているが、気づきや工夫の記録は少ない。	○	カンファレンスを充実する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	GH2ユニットの施設で多機能性はなく、今度の課題。	○	認知症対応のデイサービスが充実すれば、1床程度はショートステイに転用したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向ではないが、地域民生委員の視察、警察の連絡所、地域消防分団の避難訓練指導など積極的に支援は受けている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネジャーやサービス事業者の訪問が多くなり、パンフレットやサービス内容などの聴聞があるとともに入居希望の家族へ紹介があるようになった。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターからは運営推進会議に必ず出席してもらい、当施設の運営内容も把握され、長期的ケアマネジメントについても理解を得ていると考える。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当施設のかかりつけ医からは、定期的な訪問診療のほか、携帯電話で常時つながりいつでも往診体制にあるなど緊密な関係にあるといえる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医との関係は築いていないが、いつでも受診に応じてくれる。(現実には、精神科医は認知症患者をまともに診察してもらえなく、相手にされないケースが多い。)		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師2人を常勤配置しており、変化時の情報はその場にて、かかりつけの医師に連絡し往診など対応してもらっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	人吉総合病院及び緒方医院と連携し、緊急の場合は総合病院、かかりつけは緒方医院が対応する。(現状は、認知症の入院は病院側の指示が保持できず安静が保てないため病院側が入院を拒否されるケースが多い。)		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事前にご家庭との話し合いの中で終末期における対応について、家庭で迎えるか、施設で迎えるかの希望を把握しており、終末期と判断した場合は、早めにご家族に連絡し、救急病院搬送の手配を取る。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	緊急の場合のマニュアルによる。	○	職員への緊急時のマニュアルの指導を徹底する。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	綿密な情報を調査票に記入し、ご家族や調査員に渡すとともに調査員の訪問、面談してもらうようにしているが、有無を問わず家族の意向で転居される場合がある。	○	本人の理解の度合いにあわせた説明を出来る限り、ダメージを妨げるよう説得する。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	すべての入居者には「さん」付けで呼び、平等に対応している。「経過記録表参照」	○ 職員に対する接遇マニュアルを熟知させる。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の残された機能を最大限引き出し、日常生活に参加させるようにしている。	○ 穏やかに笑顔で暮らせる様に支援を続ける。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「起床」・「食事」・「就寝」の時間以外は入居者の意思のまま見守るまたは支援する。	○ 寄り添う介助を心がける。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	お店に出かけての買い物や、整容は控えている。理容・美容は施設内で職員が行う。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食料材料の調理や後片付けなど本人たちの持つ機能を活用している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	「お酒」・「たばこ」は原則的に禁止しているが飲み物や趣向品は本人たちの希望に合わせている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	気持よい排泄には努力している。入居期間も長いので各人の排泄パターンを把握しているが、体調により時々狂うこともある。	○	日々変化する感情や体調を観察・対応できるよう職員とともに勉強を続ける。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は原則として1週間2回にしているが、本人の希望があれば応じるようにしている。(便失禁時はその都度シャワー浴を実施)	○	機械浴を導入し、回数を増やすよう検討している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の自由にさせている。(極力眠剤を避け、入居者に応じてプラセボを使用している。)	○	日中の動きを把握し不眠時はそばにいることに努め、強制的なことはしない。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味・娯楽に興味を示す行為は無いが、生活暦でのお手伝いに対する謝辞には喜ばれる。	○	洗濯物干し、たたみ、食事の準備、片付けなどそれぞれの役割は継続させて行きたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭感覚が無い入居者なので、本人にはお金は持たせないようにしている。(訪問販売時には好きなものを購入できるように支援している。)		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	努めて戸外に出るよう進めたり、近隣をドライブするようにはしている。	○	気候が良くなってきたら「ふるさと訪問」を計画実施する。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人自らの希望は特に無く、家族とともにでかけるような企画は立てていないが、弁当持参で温泉に行くとか、浜辺を散歩するようにはしている。	○	家族への働きかけを行う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら、手紙や電話のやり取りは無いが、時々家族からの電話は、受話器を持たせてそれなりの会話をされている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や親戚の訪問は多くなった。「訪問記録参照」		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自由に暮らすことが、当施設の方針。(身体拘束の例なし)		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中において玄関やベランダに通じるドアには鍵をかけないが、入居者の出入りが危険性を伴うドアには鍵をかける。(夜間は施錠している。)		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間は見守り、夜間は1時間に1回巡回を義務付けている。	○	特に注意の必要な入居者については所在確認を徹底できるよう職員の指導をしているが見失ったときもある。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者は、事務室・収納庫・厨房など入るなどの興味はもたれていない。入居スペースは努めて質素な状態にある。(厨房の火気はIH、給湯は48℃に設定)		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	当施設の、安全管理指針に基づき、各種事故防止マニュアルを作成し、職員の意識付けを行っている。	○	事故防止には終わりは無く、常に緊張して取り組む。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員の応急手当などの訓練を定期的には行っていない。	○	地区救急隊の講師を招き施設内勉強会を企画する。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年10月、地域消防団、老人会、地域住民を含めた避難訓練を実施し、地域の人たちの理解を求めた。(地方の新聞が大きく取り上げてくれた。)	○	緊急時、入居者がパニックにならないように職員との信頼関係を作り上げるとともに地域との交流を深めるよう取り組む。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家庭は、入居者の癖についてはあまりご理解がないようであるが、毎月の記録やお便りで理解されつつある。	○	ご家族それぞれの意向を確認できるように連絡を続ける。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者の体調変化は、すべての看護師(施設長・管理者)に報告し、看護師の判断で応急処置又は医者に連絡するとともに、職員には状態に対する処置の内容について説明する。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各人の服薬している、薬品名と効能について一覧表を作成し全員が服薬の内容を把握して投与している。(服薬と症状に疑問がある場合は医師に相談している。)	○	誤薬が無いように、日々注意する。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便の状態は常時把握し、食事、水分補給や運動など働きかける。3日以上排便が無い場合は、看護師による排便処置、腹部マッサージ、飲水などを実施する。	○	個々の排便パターンの周知を徹底。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きや義歯洗浄など徹底されている。	○	異常の早期発見に努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全体的にも栄養バランスとおいしく食べれる献立を立てている。摂取方法もその人に合わせた、おにぎり、おかゆなど、とにかくおいしく召し上がることを考えている。又、脱水傾向の入居者においては随時水分チェックを行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	施設内感染には注意をしている。予防接種はインフルエンザを実施したが、職員による個人衛生管理に特に注意している。	○	感染対策委員会による勉強会など実施して、職員全員が周知できるように計画していく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	綿密な献立、使用食材、数量に基づき少量の買い出しを頻繁に行うとともに、在庫管理をこまめに行っている。	○	衛生管理の講習会には参加させ、食材の賞味期限には注意を払っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	華やかさは無い。不必要なものを極力置かず、入居者の出入りの安全第一に考えている。	○	道路沿いにはフェンスはあるが、見通しはよく入りやすいが、地理的には人家が少ない土地
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	華やかさは無い。不必要なものを極力置かず、入居者の安全第一に考えている。	○	生花、鉢物など置いてみたが、異食の対象となったり、自分のものとして部屋に持ち込んだケースがあり、考慮しているが、駅構内に張っているポスターなどを検討してみたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居期間も長いので、それぞれが自分の生活空間を決め、そこでくつろぐようにしている。	○	食堂ホールの椅子の位置などトラブルが生じないよう工夫はしている。ソファなどは自然と位置が決まっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には、できるだけ本人の使い慣れたものを入れてもらうようにしているが、個人差が多い。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室温は外気温と大差がないように配慮しているがトイレの換気、玄関の換気が足りない。	○	玄関の換気装置が無いためドアの開閉を頻繁に行うことと、靴などの日干しや洗濯で対応する。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	最低限、食事と歩行が出来る様対応しているが、年齢から来る衰えで甘えが多くなった。	○	自分の身体機能を過信している入居者と、生きている機能を不活化されようとする入居者の区別を見極める能力を職員に持たせ、それぞれの入居者に事故がないように取り組んでいる。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	現状の善し悪しは理解されており、現状でわかる範囲を大切に過ごさせたい。	○	失敗されたときのプライドを傷つけない対応が出来るよう職員とともに勉強している。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	渡り廊下兼ベランダを作り、双方の行き来ができるようにするとともに菜園造成を始めた。	○	入居者を参画させた取り組みを実施する。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

のんびりとした空間で、あせることなく穏やかに過ごしていただくことをモットーとしており、そのためには職員に対しても、お世話させていただく自分達の精神状態が入居者の態度にそのまま表れることを常に念頭に置き、ゆとりを持った仕事に取り組むように指導をしています。
また、地域の人たちの理解も得て、協力的になられたように受け取っており、今後も機会あるごとに地域との交流を深めるとともに地域行政から信頼を得る施設運営にまい進して行きたいと考えています。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム やすらぎの里にしき
(ユニット名)	メロン棟
所在地 (県・市町村名)	熊本県球磨郡錦町大字西鳥越141
記入者名 (管理者)	豊田 京子
記入日	平成 20 年 2 月 10 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『信頼と博愛』 人間にある可能性を信じるとともに「生命力」「意思」を尊び、博愛の精神を持って人々のQOLをともに考えて参る。人間としてお互いに暮らせる社会を目指し貢献事業として地域に根ざす。		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送り時に、唱和し、理念の意義を理解するとともに、入居者の意思を束縛することなく自由で温和な生活が送れるように接している。	○	「理念」の信義を正しく理解し、自然体で行動に現れるよう続ける。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族へのお便りで、毎月入居者の動向、経過報告等お知らせするとともに、運営推進会議を利用して地域への理解を求めている。		
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方の往来時の挨拶、交流会等で理解も深まり、季節野菜の差入や、徘徊入居者の送り届けなど気を配られるようになり施設に対する理解が深まりつつある。	○	今後も地域主催のイベント定期的開催するとともに、地域と共同で開催するイベントに発展させる。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	大型地震発生を想定した避難訓練を地域消防分団指導で開催し、地域住民、老人会が見学され午後の交流会を通して施設に対する認識は高まってきたといえる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入居希望者の優先順位を町役場、包括支援センターと協議し、独居老人等町が早急に支援を必要とする方たちを優先するとともに、認知症対応型のデイサービスを始めた。	○	現在、デイサービスの契約者1名週2回利用されているが、15名程度の通所利用契約者を確保し、在宅の方とのコミュニケーションを深めていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前年度の外部評価結果を全員に周知し、各種委員会で検討し、できることから改善している。	○	前年度外部評価指摘事項が、今年度指摘事項とリンクしないよう努力している。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に、当施設の各種運営規定、安全管理指針、接遇マニュアルなど提出し、当施設の取り組みを理解して頂くとともに行政側の考え方、公民館関連の動向などお聞きし、施設運営に取り入れている。	○	当施設に対する地域行政の対応、公民館長、民生委員の方たちが協力的であり、非常に感謝している。今後更にグループホームについて理解して頂くよう働きかけ市民権を得たい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政担当者とは、電話対応ではなく必要以上に出かけて行き、直接お話を伺うようにしている。入居者の動向や施設の現状など細部に至り相談でき、いつでも応じてくれる。「感謝している」	○	ホーム内のイベントには必ず招待し、協力してもらっている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会には参加している。地域福祉権利擁護の対象者が1名入所され、入居と同時に当施設に委嘱され管理しているが、他の入居者はキーパーソンが確実に支援はしていない。	○	社会情勢の推移から、福祉権利擁護事業が多くなると推測され、施設としても積極的な受け入れ態勢と理解に努めたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	これまで管理者、職員の研修会参加は数回実施した。施設内における虐待はないが、入居者による職員への被害は数回発生している。	○	入居者全員平等に極力平穏な精神状態にあるよう接しているが、いきなりの暴力行為は防ぎようがない。個々の行動について把握する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望の場合、パンフレットを差し上げ、ご家族の施設見学、入居者の施設見学を実施した後、運営規定及び重要事項説明をした後、相互理解、納得された場合に契約を結ぶことになっており、手順に従い入居されている。退去の場合で、他施設の都合で急な退去を余儀なくされる場合は困りますが、速やかに応じている。	○ グループホーム入居者は、特老等と平行して入居希望を申し込まれており、特老等のベッドの状況により、その日のうちに退去された事があったが、そのような事が無いよう、転居先の施設に事前に通知されるよう申し入れを行う。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意思表示は努めて尊重しているが、自分で意思決定ができないのも入居者の特徴であり、その時々場面により臨機応変な対応を行っている。	○ 入居者の精神状態の把握に努めるよう職員には指導している。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎日の援助経過表、預かり金支払い明細表、領収書を送付している。	○ 職員の異動は推進会議で報告しているが、家族に対しては報告していない。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の不満、苦情に対しては、その都度職員に周知できるようにして改善を図る。現状においては不満などの申告は無い。	○ 家族会への参加は限られており、今後は時々アンケートなど実施して家族の意向等を知る機会を設けてゆきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見・提案は可能な限り反映させるようにしている。但し施設サービスが向上し施設運営にメリットがある場合。	○ 提案に対する表彰制度を設け給与に反映させる。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務表作成の前に、予め本人たちの要望を100%取り入れた勤務表を作成している。職員配置も入居者18名に対し17人を配置し、ゆとりある勤務シフトが取られているといえる。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の勤務配置や対応などで入居者への影響がある場合は、職員の能力に応じた勤務配置を考えて異動させている。また、異動前には応援業務を取り入れ入居者への影響を最小限にできるような勤務表を作成している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実務者研修、管理者研修には毎年計画的に参加させている。対象外の職員においては研修などの案内をその都度回覧させているが興味を示す場合は少ない。	○ 今後、年間計画を立てながら、能力に応じた研修を考慮してゆく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県宅老所グループホーム連絡会のブロックにおける施設訪問はお互いに可能としている。勉強会の場合は勤務に支障がない限り全員参加を促し、参加している。交流会は全員参加ができた。	○ 昨年から、管理者のみの集いを計画実行し、お互いに意見交換など務めている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	2～3ヶ月に1回は職員主催の飲み会を開催し、職員の意見を聞くようにしている。今期は、福利厚生事業の一環として職員旅行を屋久島に出かけた。また職員全員参加の旅行積立を今年もはじめた。	○ 福利厚生費の年間予算として計上し、最も効果的な方法で消化する。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の勤務状況は常に把握し、良いところはよしと言い、悪いところは注意するよう努めるとともに、賞与などに反映させている。	○ 19年度、新しい試みとして、個々の職員の「良いところ探し」をアンケート形式で実施し、第三者から見た自分の良いところを意識させ、更に良いところを伸ばすように意識付けた。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談を受けるとすぐに本人との面談ができるよう計画し、状態把握、本人の状態に対応しながら信頼関係が保たれるよう努力している。最近の入居者においては納得のいく対応ができていると思う。	○ 認知症という特別の病気のため、自ら表現される事がほとんどないので、内面的な要求を的確に判断し、対応できるよう取り組む。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用時の心配事は必ず聞くようにして、出来るだけ不安が取り除けるような会話に心がけている。入居中の家族に対しては毎月の経過表のコピーや、変化など手紙を添えて送付している。	○ 電話による相談や訪問相談には管理者が対応しているが、職員全員が対応できるような体制が取れるようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設を希望された場合の相談を受けているが、家庭の経済的負担が大きすぎると思われた場合は、特老などの施設を紹介している。	○	入居者の中にも特老の申し込みをされている方が数人おられ、調査書など情報提供は積極的に行っている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者に対する相談を受けた場合、一度当施設を訪問してもらい、本人の反応を確かめ、本人自身が入居可能かどうかを見極めて入居してもらう。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	寄り添う介護を念頭に置き、外出なども可能な限り行い、家事手伝いをしてもらいながらともに過ごすことを心かけている。	○	気付かない、不慣れな職員もおり、気長に徹底するよう指導を続ける。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の情報は、細かく家族に知らせ、施設訪問を奨めているが、どうしても施設任せになりがち。	○	面会時には家族に対して外出の協力などを依頼しているが実現することは少ないので気候の良い時期には積極的に協力依頼を働きかける。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	多種多様な事情があつて入居させており、ご家族と本人の関係まで立ち入らないが、過去のことを踏まえて対応している。	○	コミュニケーションがうまく取れない入居者への面会時には、できるだけ職員がクッションとなるような場面を設定している。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚、孫などの訪問による人間関係を保たれるように施設訪問へのアドバイスは行っている。またドライブ時には、同乗者の土地勘のある場所、自宅など訪問している。	○	ふるさと訪問を計画的に実施する。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々の入居者の個性が強く、利用者同士の係わり合いは薄い孤立することなく気ままに暮らしている。	○	男性入居者の場合、協調性が薄いので、係わり方を考えてゆく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	昨年在宅復帰された入居者の通所利用を案内したり、特老の入所手続き等のお世話をしたり、関係は大事にしている。	○	他のサービス事業者との連絡体制は常に心がけ、情報交換はある程度出来ているので維持してゆく。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思表示が不明の場合がほとんどで、穏やかに過ごす事ができるように心がけて対応している。	○	本人が、さりげなく意向を話されるような人間関係を作り上げる。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報収集に努め、コミュニケーションなどに生かしながら援助及び対応に努めている。	○	家族との信頼関係を保ち、これまでの生活歴を大切にしたい援助を心がける。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の生活を観察しながら、状況に応じた対応に努めている。	○	入居者により日々の変化している状態にすばやく対応できる職員教育に努めてゆく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成時には家族や職員の意見を取り入れるようにしているが、日々変化してゆく部分には随時の変更はできていない。	○	担当者会議やケアカンファレンスを充実できるようにしてゆく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状では、日々の変化、日内変動が激しい入居者については職員間で話し合い随時の対応をしているが、計画の変更までは至っていない。	○	職員相互の情報の共有の大切さを指導強化する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過記録は一応出来ているが、気づきや工夫の記録は少ない。	○	カンファレンスを充実する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	GH2ユニットの施設で多機能性はなく、今度の課題。	○	認知症対応のデイサービスが充実すれば、1床程度はショートステイに転用したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向ではないが、地域民生委員の視察、警察の連絡所、地域消防分団の避難訓練指導など積極的に支援は受けている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネジャーやサービス事業者の訪問が多くなり、パンフレットやサービス内容などの聴聞があるとともに入居希望の家族へ紹介があるようになった。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターからは運営推進会議に必ず出席してもらい、当施設の運営内容も把握され、長期的ケアマネジメントについても理解を得ていると考える。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当施設のかかりつけ医からは、定期的な訪問診療のほか、携帯電話で常時つながりいつでも往診体制にあるなど緊密な関係にあるといえる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医との関係は築いていないが、いつでも受診に応じてくれる。(現実には、精神科医は認知症患者をまともに診察してもらえなく、相手にされないケースが多い。)		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師2人を常勤配置しており、変化時の情報はその場にて、かかりつけの医師に連絡し往診など対応してもらっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	人吉総合病院及び緒方医院と連携し、緊急の場合は総合病院、かかりつけは緒方医院が対応する。(現状は、認知症の入院は病院側の指示が保持できず安静が保てないため病院側が入院を拒否されるケースが多い。)		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事前にご家庭との話し合いの中で終末期における対応について、家庭で迎えるか、施設で迎えるかの希望を把握しており、終末期と判断した場合は、早めにご家族に連絡し、救急病院搬送の手配を取る。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	緊急の場合のマニュアルによる。	○	職員への緊急時のマニュアルの指導を徹底する。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	綿密な情報を調査票に記入し、ご家族や調査員に渡すとともに調査員の訪問、面談してもらうようにしているが、有無を問わず家族の意向で転居される場合がある。	○	本人の理解の度合いにあわせた説明を出来る限り、ダメージを妨げるよう説得する。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	すべての入居者には「さん」付けで呼び、平等に対応している。「経過記録表参照」	○ 職員に対する接遇マニュアルを熟知させる。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の残された機能を最大限引き出し、日常生活に参加させるようにしている。	○ 穏やかに笑顔で暮らせる様に支援を続ける。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「起床」・「食事」・「就寝」の時間以外は入居者の意思のまま見守るまたは支援する。	○ 寄り添う介助を心がける。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	お店に出かけての買い物や、整容は控えている。理容・美容は施設内で職員が行う。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食料材料の調理や後片付けなど本人たちの持つ機能を活用している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	「お酒」・「たばこ」は原則的に禁止しているが飲み物や趣向品は本人たちの希望に合わせている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	気持よい排泄には努力している。入居期間も長いので各人の排泄パターンを把握しているが、体調により時々狂うこともある。	○	日々変化する感情や体調を観察・対応できるよう職員とともに勉強を続ける。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は原則として1週間2回にしているが、本人の希望があれば応じるようにしている。(便失禁時はその都度シャワー浴を実施)	○	機械浴を導入し、回数を増やすよう検討している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の自由にさせている。(極力眠剤を避け、入居者に応じてプラセボを使用している。)	○	日中の動きを把握し不眠時はそばにいることに努め、強制的なことはしない。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味・娯楽に興味を示す行為は無いが、生活歴でのお手伝いに対する謝辞には喜ばれる。	○	洗濯物干し、たたみ、食事の準備、片付けなどそれぞれの役割は継続させて行きたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭感覚が無い入居者なので、本人にはお金は持たせないようにしている。(訪問販売時には好きなものを購入できるように支援している。)		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	努めて戸外に出るよう進めたり、近隣をドライブするようにはしている。	○	気候が良くなってきたら「ふるさと訪問」を計画実施する。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人自らの希望は特に無く、家族とともにでかけるような企画は立てていないが、弁当持参で温泉に行くとか、浜辺を散歩するようにはしている。	○	家族への働きかけを行う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら、手紙や電話のやり取りは無いが、時々家族からの電話は、受話器を持たせてそれなりの会話をされている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や親戚の訪問は多くなった。「訪問記録参照」		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	自由に暮らすことが、当施設の方針。(身体拘束の例なし)		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中において玄関やベランダに通じるドアには鍵をかけないが、入居者の出入りが危険性を伴うドアには鍵をかける。(夜間は施錠している。)		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼間は見守り、夜間は1時間に1回巡回を義務付けている。	○	特に注意の必要な入居者については所在確認を徹底できるよう職員の指導をしているが見失ったときもある。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者は、事務室・収納庫・厨房など入るなどの興味はもたれていない。入居スペースは努めて質素な状態にある。(厨房の火気はIH、給湯は48℃に設定)		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	当施設の、安全管理指針に基づき、各種事故防止マニュアルを作成し、職員の意識付けを行っている。	○	事故防止には終わりは無く、常に緊張して取り組む。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員の応急手当などの訓練を定期的には行っていない。	○	地区救急隊の講師を招き施設内勉強会を企画する。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年10月、地域消防団、老人会、地域住民を含めた避難訓練を実施し、地域の人たちの理解を求めた。(地方の新聞が大きく取り上げてくれた。)	○	緊急時、入居者がパニックにならないように職員との信頼関係を作り上げるとともに地域との交流を深めるよう取り組む。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家庭は、入居者の癖についてはあまりご理解がないようであるが、毎月の記録やお便りで理解されつつある。	○	ご家族それぞれの意向を確認できるように連絡を続ける。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者の体調変化は、すべての看護師(施設長・管理者)に報告し、看護師の判断で応急処置又は医者に連絡するとともに、職員には状態に対する処置の内容について説明する。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各人の服薬している、薬品名と効能について一覧表を作成し全員が服薬の内容を把握して投与している。(服薬と症状に疑問がある場合は医師に相談している。)	○	誤薬が無いように、日々注意する。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便の状態は常時把握し、食事、水分補給や運動など働きかける。3日以上排便が無い場合は、看護師による排便処置、腹部マッサージ、飲水などを実施する。	○	個々の排便パターンの周知を徹底。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きや義歯洗浄など徹底されている。	○	異常の早期発見に努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全体的にも栄養バランスとおいしく食べれる献立を立てている。摂取方法もその人に合わせた、おにぎり、おかゆなど、とにかくおいしく召し上がることを考えている。又、脱水傾向の入居者においては随時水分チェックを行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	施設内感染には注意をしている。予防接種はインフルエンザを実施したが、職員による個人衛生管理に特に注意している。	○	感染対策委員会による勉強会など実施して、職員全員が周知できるように計画していく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	綿密な献立、使用食材、数量に基づき少量の買い出しを頻繁に行うとともに、在庫管理をこまめに行っている。	○	衛生管理の講習会には参加させ、食材の賞味期限には注意を払っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	華やかさは無い。不必要なものを極力置かず、入居者の出入りの安全第一に考えている。	○	道路沿いにはフェンスはあるが、見通しはよく入りやすいが、地理的には人家が少ない土地
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	華やかさは無い。不必要なものを極力置かず、入居者の安全第一に考えている。	○	生花、鉢物など置いてみたが、異食の対象となったり、自分のものとして部屋に持ち込んだケースがあり、考慮しているが、駅構内に張っているポスターなどを検討してみたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居期間も長いので、それぞれが自分の生活空間を決め、そこでくつろぐようにしている。	○	食堂ホールの椅子の位置などトラブルが生じないよう工夫はしている。ソファなどは自然と位置が決まっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には、できるだけ本人の使い慣れたものを入れてもらうようにしているが、個人差が多い。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室温は外気温と大差がないように配慮しているがトイレの換気、玄関の換気が足りない。	○	玄関の換気装置が無いためドアの開閉を頻繁に行うことと、靴などの日干しや洗濯で対応する。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	最低限、食事と歩行が出来る様対応しているが、年齢から来る衰えで甘えが多くなった。	○	自分の身体機能を過信している入居者と、生きている機能を不活化されようとする入居者の区別を見極める能力を職員に持たせ、それぞれの入居者に事故がないように取り組んでいる。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	現状の善し悪しは理解されており、現状でわかる範囲を大切に過ごさせたい。	○	失敗されたときのプライドを傷つけない対応が出来るよう職員とともに勉強している。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	渡り廊下兼ベランダを作り、双方の行き来ができるようにするとともに菜園造成を始めた。	○	入居者を参画させた取り組みを実施する。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

のんびりとした空間で、あせることなく穏やかに過ごしていただくことをモットーとしており、そのためには職員に対しても、お世話させていただく自分達の精神状態が入居者の態度にそのまま表れることを常に念頭に置き、ゆとりを持った仕事に取り組むように指導をしています。また、地域の人たちの理解も得て、協力的になられたように受け取っており、今後も機会あるごとに地域との交流を深めるとともに地域行政から信頼を得る施設運営にまい進して行きたいと考えています。